

反対圏の定義

結城浩 / Hiroshi Yuki

2020年5月12日

1 はじめに

\mathcal{A} を圏とします。

これから、圏 \mathcal{A} の**反対圏**と呼ばれる圏 \mathcal{A}^{op} を定義します。

定義した後で、 \mathcal{A}^{op} が確かに圏になっていることを確かめます。

2 \mathcal{A}^{op} の対象

\mathcal{A}^{op} の対象を定義します。

\mathcal{A}^{op} の対象の集まり $\text{ob}(\mathcal{A}^{\text{op}})$ は、圏 \mathcal{A} の対象の集まりに等しいと定義します。

すなわち、 $\text{ob}(\mathcal{A}^{\text{op}}) = \text{ob}(\mathcal{A})$ です。

また、 \mathcal{A} の対象 A を \mathcal{A}^{op} の対象と見なすとき A^{op} と書くことにします。

すなわち、 $A^{\text{op}} = A$ です。

3 \mathcal{A}^{op} の射

\mathcal{A}^{op} の射を定義します。

\mathcal{A}^{op} の対象 A^{op} から B^{op} への射の集まり $\mathcal{A}^{\text{op}}(A^{\text{op}}, B^{\text{op}})$ は、圏 \mathcal{A} の対象 B から A への射の集まり $\mathcal{A}(B, A)$ に等しいと定義します (順序に注意)。

すなわち、 $\mathcal{A}^{\text{op}}(A^{\text{op}}, B^{\text{op}}) = \mathcal{A}(B, A)$ です。

また、 \mathcal{A} の射 $f \in \mathcal{A}(B, A)$ を \mathcal{A}^{op} の射と見なすとき f^{op} と書くことにします。

すなわち、 $f^{\text{op}} = f$ です。

また、 $f^{\text{op}} \in \mathcal{A}^{\text{op}}(A^{\text{op}}, B^{\text{op}})$ です。

4 \mathcal{A}^{op} の合成射

\mathcal{A}^{op} の合成射を定義します。

\mathcal{A}^{op} の二つの射 $f^{\text{op}} \in \mathcal{A}^{\text{op}}(A^{\text{op}}, B^{\text{op}})$ と $g^{\text{op}} \in \mathcal{A}^{\text{op}}(B^{\text{op}}, C^{\text{op}})$ に対して、 f^{op} と g^{op} の合成射 $g^{\text{op}} \circ^{\text{op}} f^{\text{op}}$ を、圏 \mathcal{A} の射 $f \circ g \in \mathcal{A}(C, A)$ を \mathcal{A}^{op} の射と見なすことで定義します。すなわち、

$$g^{\text{op}} \circ^{\text{op}} f^{\text{op}} = (f \circ g)^{\text{op}}$$

です。

5 \mathcal{A}^{op} の恒等射

\mathcal{A}^{op} の恒等射を定義します。

\mathcal{A}^{op} の対象 A^{op} の恒等射 $1_{A^{\text{op}}}$ を、 \mathcal{A} の対象 A の恒等射 1_A で定義します。

すなわち、 $1_{A^{\text{op}}} = 1_A$ です。

先ほど、圏 \mathcal{A} の射 $f \in \mathcal{A}(B, A)$ を \mathcal{A}^{op} の射と見なすとき f^{op} と書く約束にして、 $f^{\text{op}} = f$ としました。

ですから、圏 \mathcal{A} の射 $1_A \in \mathcal{A}(A, A)$ を \mathcal{A}^{op} の射と見なすとき $(1_A)^{\text{op}}$ と書いて、 $(1_A)^{\text{op}} = 1_A$ です。

よって、 $1_{A^{\text{op}}} = 1_A = (1_A)^{\text{op}}$ がいえます。

6 \mathcal{A}^{op} が圏になっていることの確認

6.1 合成射 $g^{\text{op}} \circ^{\text{op}} f^{\text{op}} \in \mathcal{A}^{\text{op}}(A^{\text{op}}, C^{\text{op}})$ の確認

$f^{\text{op}} \in \mathcal{A}^{\text{op}}(A^{\text{op}}, B^{\text{op}})$ とします。

$g^{\text{op}} \in \mathcal{A}^{\text{op}}(B^{\text{op}}, C^{\text{op}})$ とします。

\mathcal{A}^{op} の合成射の定義から、 $g^{\text{op}} \circ^{\text{op}} f^{\text{op}} = (f \circ g)^{\text{op}}$ です。

ここで、 $f \circ g \in \mathcal{A}(C, A)$ なので、 $(f \circ g)^{\text{op}} \in \mathcal{A}^{\text{op}}(A^{\text{op}}, C^{\text{op}})$ となっています。

したがって、 $g^{\text{op}} \circ^{\text{op}} f^{\text{op}} \in \mathcal{A}^{\text{op}}(A^{\text{op}}, C^{\text{op}})$ がいえました。

6.2 合成射が結合法則を満たすことの確認

$f^{\text{op}} \in \mathcal{A}^{\text{op}}(A^{\text{op}}, B^{\text{op}})$ とします。

$g^{\text{op}} \in \mathcal{A}^{\text{op}}(B^{\text{op}}, C^{\text{op}})$ とします。

$h^{\text{op}} \in \mathcal{A}^{\text{op}}(C^{\text{op}}, D^{\text{op}})$ とします。

$$\begin{aligned}
 (f^{\text{op}} \circ^{\text{op}} g^{\text{op}}) \circ^{\text{op}} h^{\text{op}} &= (g \circ f)^{\text{op}} \circ^{\text{op}} h^{\text{op}} & (f^{\text{op}} \circ^{\text{op}} g^{\text{op}}) &= (g \circ f)^{\text{op}} \\
 &= (h \circ (g \circ f))^{\text{op}} & (\dots)^{\text{op}} \circ^{\text{op}} h^{\text{op}} &= (h \circ (\dots))^{\text{op}} \\
 &= ((h \circ g) \circ f)^{\text{op}} & \text{圏 } \mathcal{A} \text{ における合成射の結合法則} & \\
 &= f^{\text{op}} \circ^{\text{op}} (h \circ g)^{\text{op}} & ((\dots) \circ f)^{\text{op}} &= f^{\text{op}} \circ^{\text{op}} (\dots)^{\text{op}} \\
 &= f^{\text{op}} \circ^{\text{op}} (g^{\text{op}} \circ^{\text{op}} h^{\text{op}}) & (h \circ g)^{\text{op}} &= g^{\text{op}} \circ^{\text{op}} h^{\text{op}}
 \end{aligned}$$

したがって、

$$(f^{\text{op}} \circ^{\text{op}} g^{\text{op}}) \circ^{\text{op}} h^{\text{op}} = f^{\text{op}} \circ^{\text{op}} (g^{\text{op}} \circ^{\text{op}} h^{\text{op}})$$

がいえ、結合法則を満たすことが確かめられました。

6.3 恒等射が単位法則を満たすことの確認

$f^{\text{op}} \in \mathcal{A}^{\text{op}}(A^{\text{op}}, B^{\text{op}})$ とします。すなわち、 $f \in \mathcal{A}(B, A)$ です。

$g^{\text{op}} \in \mathcal{A}^{\text{op}}(B^{\text{op}}, A^{\text{op}})$ とします。すなわち、 $g \in \mathcal{A}(A, B)$ です。

$$\begin{aligned} f^{\text{op}} \circ^{\text{op}} 1_{A^{\text{op}}} &= f^{\text{op}} \circ^{\text{op}} (1_A)^{\text{op}} & 1_{A^{\text{op}}} &= (1_A)^{\text{op}} \\ &= (1_A \circ f)^{\text{op}} & f^{\text{op}} \circ^{\text{op}} (\dots)^{\text{op}} &= (\dots) \circ f^{\text{op}} \\ &= f^{\text{op}} & & \text{圏 } \mathcal{A} \text{ における恒等射の単位法則} \end{aligned}$$

したがって、

$$f^{\text{op}} \circ^{\text{op}} 1_{A^{\text{op}}} = f^{\text{op}}$$

がいえました。

$$\begin{aligned} 1_{A^{\text{op}}} \circ^{\text{op}} g^{\text{op}} &= (1_A)^{\text{op}} \circ^{\text{op}} g^{\text{op}} & 1_{A^{\text{op}}} &= (1_A)^{\text{op}} \\ &= (g \circ 1_A)^{\text{op}} & (\dots)^{\text{op}} \circ^{\text{op}} g^{\text{op}} &= g \circ (\dots)^{\text{op}} \\ &= g^{\text{op}} & & \text{圏 } \mathcal{A} \text{ における恒等射の単位法則} \end{aligned}$$

したがって、

$$1_{A^{\text{op}}} \circ^{\text{op}} g^{\text{op}} = g^{\text{op}}$$

がいえました。

これで単位法則を満たすことが確かめられました。

以上で、圏 \mathcal{A} の反対圏 \mathcal{A}^{op} は確かに圏になっていることが確かめられました。

謝辞

いつもご教示ありがとうございます。

- 松森至宏さん (https://twitter.com/yoshi_matsumori)
- 梅崎直也さん (<https://twitter.com/unaoya>)
- なっふいさん (<https://twitter.com/naughiez>)